

連結業績ハイライト

2011年4月1日～2011年6月30日

東日本大震災の影響による需要減で営業収入が前年割れ

- 東日本大震災の影響により、国内線・国際線ともに需要が大きく減退したため、営業収入は前年同期より17億円減少して3,050億円となりました。
- 通期で300億円の緊急対策を策定し、当第1四半期において約100億円の費用削減を実行しましたが、営業費用は前年同期より93億円増加して3,131億円となりました。
- これらの結果、当第1四半期は、営業損失が81億円、経常損失は144億円、四半期純損失は84億円となりました。

※金額は表示単位未満の端数を切り捨てています。

経営成績

(単位: 億円)

	前第1 四半期	当第1 四半期	増減	前年同期比 増減率 (%)
営業収入	3,068	3,050	△ 17	△ 0.6
営業費用	3,038	3,131	93	3.1
営業利益又は損失(△)	29	△ 81	△ 110	—
営業外損益	△ 59	△ 63	△ 4	—
経常損失(△)	△ 29	△ 144	△ 114	—
特別損益	△ 23	△ 1	22	—
四半期純損失(△)	△ 52	△ 84	△ 32	—
EBITDA*	314	207	△ 107	△ 34.0

※EBITDA=営業利益+減価償却費

2012年3月期の業績見通し

通期では黒字を確保、2円配当を計画

- 旅客需要はビジネスを中心に回復してきているものの、需要が震災前の水準に戻るには年度末までかかるとの見通しを持たざるを得ない状況です。
- 次世代主力機ボーイング787型機を下半期に12機導入し、順次国内線から就航させる一方で、大型機の退役など需要動向に合わせた機材の最適化を進めていきます。
- 緊急対策を継続して進めていくほか、航空機燃料税の減免による費用削減が見込まれます。
- 以上の結果、営業収入は14,100億円、営業利益は700億円、経常利益は360億円、当期純利益は200億円を見込み、最終利益は黒字を確保する見通しです。配当は2円配当を継続する計画です。

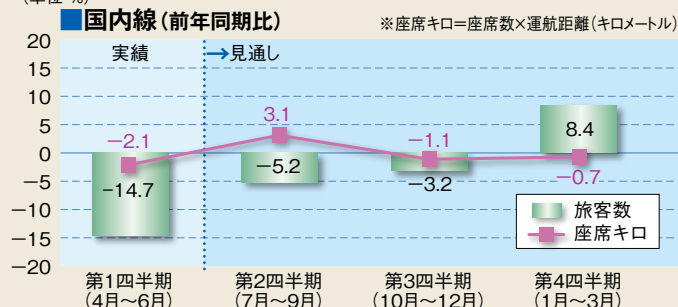
2012年3月期 連結業績見通し

(単位: 億円)

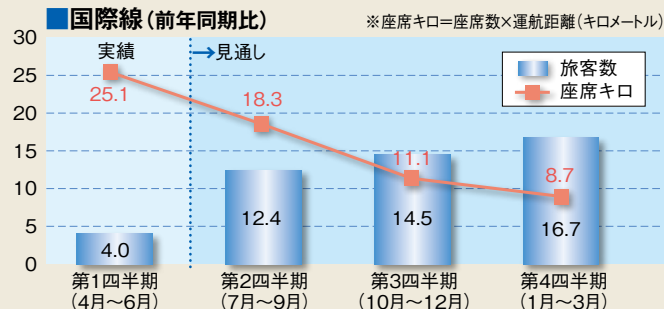
	前期実績 (2011年3月期)	当期見通し	増減
営業収入	13,576	14,100	523
営業利益	678	700	21
経常利益	370	360	△ 10
当期純利益	233	200	△ 33

座席キロ*と旅客数の伸び率の見通し

(単位: %)



旅客数の伸び率は、第3四半期まで前年同期比マイナスの水準が続きますが、第4四半期にはプラスに転じる見通しです。



座席キロの伸び率は、羽田発着路線の開設などにより上半期は高位にありますが、第3四半期以降一巡することに伴い、なだらかに低減します。また、旅客数の伸び率は、すでに第1四半期から前年同期を上回っており、第3四半期以降、座席キロの伸び率を上回る見通しです。